

大粒かつ極良食味で収量性の優れる水稻新品種「みのりの穂」

利用対象：土地利用型農家、普及指導員

人口減少や食生活の変化等により、「コシヒカリ」等ブランド米の需要は減少しつつありますが、業務用や輸出用などの一般米は需要に供給が追いついていない状況となっています。そこで、大粒かつ極良食味で収量性にも優れる水稻新品種「みのりの穂」を育成しました。今後、ブランド米とは異なるカテゴリーの一般米として普及させ、新たな用途の需要拡大を進めていきます。

表 「みのりの穂」の生育収量調査結果(農業研究所内、2011～2012 年度、2017～2018 年度)

品種名	出穂期 (月.日)	成熟期 (月.日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	精玄 米重 (kg/a)	比較 対比 (%)	千粒 重 (g)	玄米外観 品質 (1-9)	倒伏 程度 (0-5)	食味 スコア
みのりの穂	8.11	9.16	76	21.6	353	61.2	104	26.7	6.3	0.0	83
みえのゆめ	8.03	9.08	71	20.5	396	58.7	100	23.7	5.8	0.0	67

注)移植期は 5 月 15 日。玄米外観品質は「上上」(1)～「下下」(9)の 9 段階、倒伏程度は「無」(0)～「甚」(5)の 6 段階で評価。食味スコアは 2018 年度のデータ。

品種特性 (みえのゆめとの比較)

- ・ 出穂期は 8 日程度遅く、成熟期は 8 日程度遅い。
- ・ 稈長は 5 cm 程度長く、穂長は 1 cm 程度長く、穂数はやや少ない。
- ・ 草型は穂重型に属し、耐倒伏性は‘やや強’である。
- ・ 葉いもち、穂いもち抵抗性はいずれも‘やや強’であり、白葉枯病抵抗性は‘中’である。
- ・ 玄米千粒重は 3g 程度大きいのが、乳白粒等の未熟粒がやや発生し、外観品質はわずかに劣る。
- ・ 食味は甘みがあり、「コシヒカリ」以上の極良食味である。
- ・ 収量は「みえのゆめ」と同程度の多収である。



図 1 成熟期前の「みのりの穂」(松阪市、2018 年 9 月)



図 2 「みのりの穂」の精白米

(利用上の留意点)

- ・ 極端な多肥栽培では倒伏する可能性がある。
- ・ ごま葉枯病には強くないため、登録のある薬剤により適期防除を行う。
- ・ 県内で作付される他品種と比較して成熟期が遅く、斑点米カメムシ等の被害を受けやすいため、作付の団地化を図るとともに、適期防除を行う。
- ・ 大粒で胴割しやすく、やや穂発芽しやすいことから、適期収穫に努める。
- ・ 栽培にあたっては、民間企業との全量契約栽培が前提となる。

お問い合わせ先	生産技術研究室 農産研究課 大野鉄平 電話 0598-42-6359
	中央農業改良普及センター 地域農業推進課 磯山繁幸 電話 0598-42-6323
参考になる資料	http://www.pref.mie.lg.jp/nougi/hp/74882027005.htm